

平成31年度

目黒日本大学中学校

入学試験問題

国語

試験時間 50分

注意事項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- この問題冊子は、全13ページあります。
- 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図がありましたら、解答用紙を取り出してください。
- 解答はすべて解答用紙の決められた欄らんに記入してください。
- 試験中に質問がある場合は、手を挙げて監督者かんとくに知らせてください。
- 試験終了後、監督者かんとくの指示にしたがって問題冊子と解答用紙を提出してください。
- 解答は、特に指示がないかぎり、句読点や記号をふくむものとしします。
- 問題冊子および解答用紙に、受験番号・氏名を記入してください。

受験番号	氏名

一

次の各問いに答えなさい。

問1 次のぼうせん部の漢字の読みを答えなさい。

- ① 長年本棚ほんだなにそのままにしておいたので、本が傷へんんでしまった。
- ② このワンピースには裏地うらぢがきちんとついている。
- ③ 弟は専せんらマンガばかり読んでいる。

問2 次のぼうせん部のカタカナの漢字を答えなさい。

- ① 姉は大学を卒業して、旅行関係の仕事にツついた。
- ② 難しい問題にもソツそつセンせんして取り組む。
- ③ 荷物をユウソウゆうそうする。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ことばは「愛」^①のようにもともとあった概念を明確にして整理するだけではありません。今までになかった新しい概念を創り出すこともあります。そのよい例は数の概念です。子どもは数のことばを覚えることによって、「愛」よりもさらに抽象的な「数」の世界への扉を開け、数学、科学の世界への第一歩を踏み出します。

赤ちゃんは、最初は数をモノと対応づけて理解しています。一個、二個、三個くらいまではきちんと数えることができます。A、二つの箱を赤ちゃんの前に置き、赤ちゃんの目の前で一つの箱には二枚のクッキーを、もう一つの箱には三枚のクッキーを入れて見せます。すると赤ちゃんはクッキーをたくさんほしいので、三枚のクッキーを入れた箱のほうに這って行きます。

ただし、赤ちゃんの数の概念は私たちの持つ数の概念と大きく違います。赤ちゃんは4より大きい数を、大まかな量として扱っているようです。例えば四個のおはじきと八個のおはじきを見れば、八個のおはじきのほうが明らかに多いことは見てすぐわかります。でも四個と五個の違いはばつと見ただけではわからず、数を正確に数えないと五個のほうが四個よりも多いことがわかりません。赤ちゃんは二個と三個だときちんと数えることができず、三個のほうが二個より多いことがわかります。でも、四個以上になると、きちんと数えることができず、見た目の量で多いか少ないかを決めてしまうのです。

つまり、赤ちゃんの時期には、数はどんなに大きな数でもきちんと数えられること、ある数とそれに1を足した数は「違う数」であることを理解していないのです。ではいつごろ、どのようにしてこの理解が生まれるのでしょうか。

子どもは二歳くらいから「一つ」「二つ」、あるいは「いち」「に」という数のことばを話し出しますが、二歳くらいではほとんどの子どもは「に」「さん」「よん」が「だいたいこのくらい」という適当な量の数ではなく、正確に「2」「3」「4」という数を示すことばだということを理解していないようです。

子どもは最初に「いち」あるいは「一つ」が一個のモノに対応することを学びます。B、この時点では「に」は正確に「2」ではなく、「1よりも多い数」という捉え方をしているようです。しばらくして二歳半から三歳くらいになると、「に」は「1と1」、つまり二個のモノの集合と結びつくようになります。つまり「に」ということばは「1よりも多い数」という認識ではなく、正確に二個のモノに対応づけられるようになるわけです。

それから数か月すると、子どもは「さん」の意味も、「二つのモノ、もう一つのモノ、さらにもう一つのモノ」の集合を意味することに気づきま

す。□C「さん」は「に」にもう一つのモノが加わった集合であることに気づきます。ここで、子どもは「に」は「いち」よりきつかり一つ多く、「さん」は「に」よりきつかり一つ多いということを理解するようになるのです。ここまで来れば、あとはほぼ□Zに、それぞれの数のことばが、正確にモノの数に対応することを理解します。8と9は「違う数」だし、15と16はモノが密集していて同じくらいの量にみえても、やはり同じように「違う数」だということがわかるようになります。

つまり赤ちゃんでも区別することができる1、2、3という小さい数を表すことばを知ることによって、子どもは数がだいたいの量を表す概念ではなく、それぞれのことばが正確で唯一無二の数に対応することを理解します。その理解を足がかりに、自分でも経験することがない大きな数にもことばを対応づけることができ、それぞれが他の数とは区別される唯一無二の存在なのだということを理解するようになります。

1から3くらいまでの小さい数を数える能力は、人間の赤ちゃんだけではなく、人間以外の動物も持っていることがわかっています。例えば、綿毛ザルというサルは、一個のモノに一個のモノが加わればきつちり二個になることが理解できるということを報告した研究があります。また、数を大雑把に捉えて「大きい量」「小さい量」を判断する能力は、ハト、ネズミ、チンパンジーなどをはじめ、さまざまな動物でも確認されています。

しかし、^④大きい数を正確な数に対応づけ、例えば10000と10001が異なる数なのだという理解を持つのは人間だけです。人だけが持ち得る「数」という抽象概念。この抽象概念の誕生に、言語は深く関わっているのです。

この理解はさらに素数[※]、有理数、無理数、虚数^{きよすう}などの概念の理解への足がかりになります。赤ちゃんは自然にモノに対応づけ数えることができる数の名前を覚えることで、数という抽象的な概念の入り口に一歩足を踏み入れます。そこから、抽象的な数の概念、数学の概念をことばによる説明によって理解することも可能になるのです。

（今井むつみ『ことばの発達の謎を解く』）

※ 素数、有理数、無理数、虚数…高等教育で学ぶ数の種類。

問1 [A] [C] に当てはまる言葉としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア しかし イ だから ウ たとえば エ つまり

問2 ぼうせん部①「愛」とあるが、本文中における「愛」と同じように、抽象的な概念を表す言葉を次の中から三つ選び、記号で答えなさい。

- ア 食物 イ 勇気 ウ 学校 エ 幸福 オ 平和 カ 友達

問3 ぼうせん部②「赤ちゃんの数の概念」を説明した具体例としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 赤ちゃんは、五枚のおせんべいと六枚のおせんべいを見たら、ぱっと見ただけですぐに六枚のおせんべいの方に行ってしまう。
 イ 赤ちゃんに六枚のおせんべいと七枚のおせんべいを見せても、すぐにどちらが多いかを判断することはできない。
 ウ 赤ちゃんは、二枚のおせんべいと三枚のおせんべいを見た目の量だけでどちらが多いかをすぐに判断することができる。
 エ 赤ちゃんに三枚のおせんべいと七枚のおせんべいを見せたが、どちらが多いかをすぐに判断できず、どちらにも這って行かなかった。

問4 ぼうせん部③「どのようにしてこの理解が生まれるのでしょうか」とあるが、どのようにして理解が生まれるのか。それを説明している段落としてふさわしい段落の初めの五字をぬき出しなさい。

問5 [Z] に当てはまる言葉としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一般的 イ 楽観的 ウ 積極的 エ 自動的

問6 ぼうせん部④「大きい数を正確な数に対応づけ、例えば10000と10001が異なる数なのだという理解を持つのは人間だけです」とあるが、なぜ「人間だけ」なのか。理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間以外の動物はことばを持たないが、人間は抽象概念を表すことのできることを持っているから。
- イ 人間以外の動物は大きい数を知っている必要はなく、人間だけが大きい数を日常生活で必要としているから。
- ウ 人間以外の動物は小さい数を数える能力を持っているが、人間は大きい数を数える能力を持っているから。
- エ 人間以外の動物の赤ちゃんは大きい数を数えることはできないが、人間の赤ちゃんは大きい数を数えることができるから。

問7 本文の内容としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間はことばがないと抽象的な概念を明確にして整理したり、新しい概念を創造したりすることができない。
- イ 人間が数の概念を理解して数学や科学を学んでいくためには、数のことばを覚えることがその第一歩となる。
- ウ 人間と同じように数を数えられる動物はほかにもいるが、人間とほかの動物とではその能力に違いがある。
- エ 人間は赤ちゃんのときから、数を表すことばがそれぞれモノの数に対応していることを正確に理解している。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

部活を休んで医者に診てもらおうと、左の手首を骨折していた。骨折といっても、ちよつとひびが入った程度だけど、治るのに一月はかかるらしい。最悪についてない。

次の日、おれが片手を吊って登校すると、教室が騒然となった。

「どうしたんだよ雅人、その手！」

「部活の練習に熱が入りすぎてな。名誉の負傷だ」

「違うだろ。大久保から聞いたぞ。練習前に塀から落ちたらしいって」

「落ちたんじゃなくて、着地した後で転んだんだよ。そこは間違わないでいただきたい！」

「変わんねえじゃねえか。まあ、雅人らしいけどな」

手首の痛みは、一晩経つても全然楽になつていなかった。だけど愉快で明るいおれは、骨折していても苦しい顔を見せるわけにはいかない。学校にいる間中、おれは懸命に元気をふりを続けた。

放課後、また医者に行くと、待合室はだいぶ混んでいた。もう三十分以上待っているのに、まだ診察に呼ばれない。スマホも携帯も持つてないし、待合室の漫画も片手じゃ読めないから、死ぬほど退屈だった。

硬いソファに腰掛けて、おれはぐったりとうなだれていた。待合室に知り合いはいない。空元気を続けなくてよくなったら、おれの気持ちはどんどん暗く沈んでいった。なんで骨折なんかしちゃまったんだろう。後悔ばかりがどんどんでかくなつていった。

駄目だ駄目だ。こんなふうには落ちこんでるのは、おれのキャラじゃない。もつと骨折のポジティブな面を考えることにしよう。

まず、治るまで骨折ネタで笑いが取れるだろ。こう痛くつちや勉強や宿題がはかどらないのもしかたがないし、部活もしばらく堂々と休める。それに、そうだ、週末の練習試合にも出なくてすむじゃないか。最初から勝負にならないってわかっている相手に挑んで、ポコポコにされるとか遠慮したいもんなあ。なんだよ、骨折も悪いことばつかじゃないじゃんか。

そう考えて笑顔になりかけたところで、おれは我にかえた。おい、なにを考えてたんだ、おれは。いまのはほんとうに、おれの本心なのか？

昨日までだって、似たようなことを考えていたはずだった。だけど、骨折で気が滅入っているせいだろうか。いまはそんなことを考えている自分のことが、とても駄目なやつのように思えてしかたがなかった。

勉強の成績は最底辺、部活でも [A] しない。それなのにどつちも頑張ろうとしないで、いまもまた骨折のせいにして、勉強からも部活からも逃げようとしている。そんなやつにくせに、人気者のままでいたくて、せつせとみんなを笑わせながら、いつか [Z] を尽かされるんじゃないかと怯えている。

「ダサすぎじゃねえか、おれ……」

待合室の汚れた床を見つめて、おれはそうつぶやいた。

小学校の頃、おれはたしかに教室のまんなかで輝いていた。そんな自分が好きだった。だけどいま、おれははつきりと、自分のことが嫌いだと思つた。どうしておれは、こんなふうになつちまつたんだろう。

手首の痛みが急に強くなつたように感じて、おれは危うく泣きそうになつてしまった。

散々待たせたくせに、診察はちよこつと手首の様子を診ただけで終わった。

医者を出た後も、おれのテンションはどん底のままだった。こんな調子で、明日からも愉快で明るいおれを続けていけるのか、だいぶ自信がなくなつてしまった。

帰り道の途中で、学校のまえを通ると、体育館からバスケットボールの弾む音が聞こえてきた。バスケット部のみんなはまだ練習中だ。見学だけでもしていこうか、と考えたけど、そんなことをしたってなんの意味もない。

なのになんだか悪いことをしている気分になつて、おれが早足でそこから立ち去ろうとしていると、突然「ウエイト！」と声が聞こえた。

[B] して振りかえると、ラミレスがどたとこつちに走つてくるところだった。それを見たおれは、すぐに笑顔をつくつて挨拶をした。

「お——っ、ラミレス！ ハローハロー！」

ラミレスはおれのまえまでやつてくると、ぜえはあ息を整えてから、おれに尋ねてきた。

「マサト、手はだいじょうぶですか？」

「ああ、ちよつと手首にひびがはいっただけ。だいじょうぶだいじょうぶ。アイム、あー……」

おれが英語を思いだそうとしていると、ラミレスはまたおれを待たせて、そばにある自動販売機のほうに走つていった。そして自動販売機でミルクティーを買つてくると、あつたかいその缶をおれに手渡した。

「なんでミルクティー？」

「カルシウム取れば、骨、早く治る。メイビー」

思わず落ちこんでいたのも忘れてふきだしてしまった。治るかっ、と思っただけど、こんなおいしいネタ振りを無駄にするのはもったいない。おれはラミレスに缶のプルタブを開けてもらおうと、熱いミルクティーをぐびぐび飲んで、力のこもった声で言った。

「おおおっ、カルシウムパワーで、骨が、骨が……」

「イエア、イエアイエアイエア！」

「治、らな——いっ！」

「ノ——ッ！」

ラミレスが頭を抱える。いやあ、やっぱラミレスのノリは最高だわ。そう思っただけで笑っている途中で、なぜだか急にさっきまでのどんよりした感情がもどってきて、おれは笑顔をくもらせてしまった。

ラミレスはそれを見逃さず、心配そうに言った。

「マサト、いまでも落ちこんでるね？」

「おれが？ 全然。アイム楽しい、イエ——イ！」

空元気でこたえる。するとそのとたん、ラミレスが「ゴメンナサイ」といきおいよく頭を下げるので、おれは C してしまった。

「昨日、ワタシが日本語で注意できていれば、マサトはきつと、骨、折らなかつた。だから、アイム・ソーリー、ゴメンナサイ」

「ちよっ、違うって！ ラミレスのせいじゃないし、おれが落ちこんでるのも骨折のせいじゃないから！」

慌ててはげまそうとしたら、落ちこんでるのをすっかり認めてしまった。ラミレスが疑うような目でおれを見つめる。どうしようかと迷ってから、おれは正直に話すことに決めた。

クラスの仲間やほかの先生が相手だったら、絶対に話さない。だけど、ラミレスならまあいいか、と思った。ラミレスだったら日本語が不自由だから、わざわざまわりに言いふらしたりしないだろう。

「なんつうか、最近全然駄目なんすよ、おれ。テストの点は最悪だし、得意だったはずの運動でも活躍できないし。なのに勉強も運動も、努力する気とかちつとも起きなくなつて。それでいろいろあきらめて、まわりのやつらにどう見られてるかばっか気にして、そういうのすっげえダセエな、つてへこんじゃつて……」

ラミレスはおれの日本語がよくわからなかつたみたいだった。それでもべつにかまわなかつた。ていうか、相手がラミレスだからって、なにこんなぶっちゃけ話してるのかね、おれは。

③ なんだか恥はずかしくなっていると、難しい顔をしていたラミレスが、いきなり真面目な声で言った。

「マサト、ワタシはムシャシユギヨウのため日本に来ました」

「ムシャシユギヨウ？」

おれもつられて英語っぽい発音になる。武者修行つてあれか、自分を鍛きたえるみたいな意味か。

「日本に来る前、ワタシとても駄目なやつだった。勉強駄目、運動駄目、性格暗い、友達いない、なにもできない、なにもしない。そんな自分を変えたくて日本に来た。知り合いもない、言葉もわからない国で、頑張つて暮らしてたら、駄目な自分を変えられると思った」

④ たどたどしい日本語で、ラミレスは真剣しんけんに語つてみせる。昔から陽気だったんだろう、と思つていたから、ラミレスの話はとても意外だった。意外に思えるつてことは、ラミレスはたしかに変わることができたんだろう。

「……おれも、外国でひとりつきりで暮らしたりしたら変われるっスかね」

自然とそんな言葉がおれの口からこぼれた。

そうだ、おれは変わりたい。ダサい自分を変えたい。たしかにそう思った。だけど、さすがに外国へ武者修行に行くなんて無理だよな、とあきらめかけていたら、ラミレスが首を横に振つてこたえた。

「ノー、外国に行かなくてもだいじょうぶ。試してみてわかった。大事なのはハート。変わろう、というハートがあれば、どんな小さなきつかけでも、人は変わる」

熱っぽくそう告げるラミレスを、おれは柄がらにもなく真面目な顔で見つめてしまった。いつもだったら、なにクサイこと言ってるんすか、とすかさず突つつこむような科白せりふ。それなのにおれは、どう反応すればいいかわからなくなつてしまつて、曖味あいまいな笑顔で言った。

⑥ 「……そういうもんすかね」

「イエア、ユー・キャン・チェインジ・ユアセルフ」

「チェインジ？」

授業では習つてないけど、さすがにチェインジの意味くらいはわかる。キャンもこのまえやつたばっかだしな。

ラミレスは「ノーノーノー、チェインジ」とくりかえすと、ポケットから手帳を出して、そこにCHANGEと書いてみせた。へえ、チェインジつてこう書くのか。なんでその発音にこだわるのか謎なぞだけど、たしかに「チェインジ」より「チェインジ」のほうが、発音が重々しくて

「変わつてやるぜ」みたいな空気が伝わってくる。

「リピーター・アフター・ミー。チェインジ」

「チェインジ？」

「グッド。ユー・キャン・チェインジ・ユアセルフ」

「ユー・キャン・チェインジ・ユアセルフ」

「パーフェクト！ほらね、マサト、やればできる。マサトもきつと変わるよ」

ラミレスが笑顔で拳を見せる。おれも自然に笑顔になって、折れてないほうの拳を突きだした。変われそうな予感も自信もなかったけど、拳と拳がぶつかった瞬間、心がちよつと軽くなつた気がした。

（如月かずさ「ABCスープ」『給食アンサンブル』）

※ ラミレス：雅人の中学校の英語教師

問1 ぼうせん部①「元気なふり」とあるが、「元気なふり」と同じ意味を表す言葉を本文中からぬき出しなさい。

問2 A C に当てはまる言葉の組み合わせとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|------|
| ア | A | はつきりと | B | むすつと | C | いらつと |
| イ | A | ぱつと | B | はつと | C | ぎよつと |
| ウ | A | ほつと | B | どきつと | C | すつと |
| エ | A | しゃきつと | B | にこつと | C | びくつと |

問3 Z にふさわしい言葉を考えて、漢字二字で答えなさい。

問4 ぼうせん部②「おれは危うく泣きそうになってしまった」とあるが、ここから読み取れる雅人の心情としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小学校の頃と違って、中学校では何もかもうまくいかず、弱っていたときに骨折までしてしまった。この次は、きっと自分がクラスの人気者ではいられなくなるという現実**にぶつか**るに**ちが**い**ない**と思**い**、不安でたまらなくなっている。

イ 中学校に入ってから勉強も運動もうまくいかず**に**、このままではい**け**ないと思**っ**ていた。そう思**い**ながらも、クラスのみんなを笑わせ続けることで自分をごまかし、ろくに努力もしないで逃げ続けてばかりいたことを悔**や**んでいる。

ウ 勉強も運動もいま**い**ちで、このままではい**け**ないと思**い**ながらも、何とかしようと努力をしているわけでもない。そのくせして、人気者のままでいることには必死で、みんなの目を気にしてびくびくしている自分が**か**好**悪**く、情けないと思**っ**ている。

エ 勉強も運動も思うようにい**か**なくな**っ**てしまったことで、クラスの人気者で**い**られるか**ど**うか**危**う**く**な**っ**てしまった。クラスで輝いていた頃の自分と何もかも**う**ま**く**い**か**なくな**っ**てしまった今の自分とを比べて、むなしさを感じている。

問5 ぼうせん部③「なんだか恥ずかしくなっている」とあるが、雅人はなぜ「恥ずかしくなっている」のか、説明しなさい。

問6 ぼうせん部④「ただどしどしい日本語で、ラミレスは真剣に語ってみせる」とあるが、その理由を説明したものと**して**ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いつもは冗談ばかり**い**合**っ**ている雅人が**落**ち**こ**んで**い**るので、**真**剣なところを見**せ**て元**気**づ**け**たいと思**っ**たから。

イ 自分自身の経験**を**話**す**ことで、人知**れ**ず思**い**悩**み**、落**ち**こ**ん**で**い**る雅人に元**気**を取りもど**し**てほ**し**いと思**っ**たから。

ウ 雅人が骨折**を**したのは自分**の**せいだと責任を感じて**い**たので、自分**が**なんとかして雅人を変えようと思**っ**たから。

エ 人に頼**ら**ず**に**自分を変えることができた経験**を**話**す**ことで、いつまでも人に甘**え**ている雅人**に**変わ**っ**てほ**し**いと思**っ**たから。

問7 ぼうせん部⑤「柄にもなく」とあるが、雅人の性格を表現している部分を本文中から六字でぬき出しなさい。

問8 ぼうせん部⑥「そういうもんスカね」とあるが、「そういう」が指す内容を「〜ということ。」につがるように四十字以内で説明しなさい。

問9

本文の内容としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 雅人は中学生になってからの自分に嫌気がさし、落ちこんでいたが、ラミレスに正直に自分の気持ちを話し、ラミレスから変わろうという気持ちがあれば変われると励まされたことで、少し気持ちが楽になっている。
- イ 雅人は中学生になってから何もかも上手くいかずに自信をなくしていたが、ラミレスに自分の気持ちを全て包み隠さずに話し、素直にされたことで、自分が変われるような気持ちになり、自信を取り戻している。
- ウ 雅人は小学生の時とは違う自分に幻滅して誰に対しても心を開けずにいたが、ラミレスにありのままの自分を受け入れてもらったことで、周囲に対しても少しずつ心を開こうと思い始めている。
- エ 雅人は中学生になってから勉強だけでなく、得意の運動でも思うようにいかず悩んでいたが、ラミレスにその気さえあれば人は変われるとアドバイスされたことで、自分を変える努力をしようと決心をしている。

四

次の各問いに答えなさい。

問1 言葉の使い方としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

「気が置けない」

- ア ピアノの発表会の前はとても気が置けない。
- イ いくら君でも校長先生にはさすがに気が置けないだろう。
- ウ 初めて会った人とはなかなか気が置けない。
- エ 小学校の時から同じクラスだった彼とは気が置けない仲だ。

問2 ぼうせん部と同じ意味で使われているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

「羽目を外して怒られる。」

- ア 故郷のことが思い出される。
- イ このケーキなら何個でも食べられる。
- ウ 彼はいつも新生入生に頼られる。
- エ 教授が先に出発されるだろう。

問3 芥川龍之介の作品としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 杜子春
- イ 一房の葡萄
- ウ 蜘蛛の糸
- エ トロッコ

問4 「登山」と同じ組み立ての熟語としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 読書
- イ 幸福
- ウ 明暗
- エ 未知



四

問 2

【訂正前】

「羽目を外して怒^{おこ}られる。」

→

【訂正後】

「羽目を外して怒^{おこ}られる。」

【訂正前】

ウ 彼はいつも新入生に頼^{たよ}られる。

→

【訂正後】

彼はいつも新入生に頼^{たよ}られる。